

タダノ

トラック式(軌道陸上兼用車)

適用範囲		モデル名		AT-150DW-1	
		適用号機又はスペック番号		HM0001~	
区分	検査箇所	運用項目 ※測定条件、方法	単位	検査基準値	
作業装置	ブーム	スライディングパッド	上下	mm	2以下
		ド部ガタ	左右	mm	0.5以下
		スライディングパッド摩耗量		mm	—
	バケット	積載		kg	200
	油圧ポンプ	吐出圧		Mpa (kg/cm ²)	16.7±5 (170.3±51)
		ポンプ回転数		min ⁻¹	795±25
		※作動油		—	—
		油温		°C	40±5
	油圧シリンダー	自然降下量 ※1	起伏	mm	2以下
			伸縮	mm	3以下
ジャッキ			mm	1以下	
ウインチ起伏			mm	—	
アースリール線	抵抗値		Ω	—	
安全装置	作業範囲	作業範囲規制 ※9		—	
	規制装置	モーメントリミッタ ※9		—	
	インターロック	ジャッキインターロック		—	有
		ブームインターロック		—	有
総合テスト	作動速度上部	起伏 ※2-1	上	S	35±4
			下	S	
		起伏 ※2-6	上	S	—
			下	S	—
		旋回 ※2-2	右	S	50±5
			左	S	
		伸縮 ※2-3	伸	S	37±4
			縮	S	
		屈伸：アーム ※2-7	開	S	—
			閉	S	—
		バケット首振 ※2-4	右	S	30(参考値)
			左	S	
プラットフォーム旋回 ※2-5	右	S	—		
	左	S	—		

<p>※1. 油圧シリンダの自然降下量</p> <p>1. 起状シリンダ 「測定要領」 1) 車体を水平堅土上に設置する。 2) ブーム全縮状態で、起操作にて水平にする。 3) エンジンを停止する。 4) シリンダ（ロッド）にマーキングする。 5) 起状操作バルブを操作し、残圧を抜き1分後に0点をセットする。 6) 10分経過後、降下量を測定する</p> <p>「判定基準」 ロッドの縮小量は2mm以内/10分</p> <p>※油温の高い時は行わないこと</p>	
<p>2. 伸縮シリンダ 「測定要領」 1) 車体を水平堅土上に設置する。 2) ブーム起状角度最大で、伸操作にて10cm伸長する。 3) エンジンを停止する。 4) セカンドブームにマーキングする。 5) 伸縮操作バルブを操作し、残圧を抜き1分後に0点をセットする。 6) 10分経過後、降下量を測定する</p> <p>「判定基準」 セカンドブームの縮小量は3mm以内/10分</p> <p>※油温の高い時は行わないこと</p>	
<p>3. ジャッキシリンダ 「測定要領」 1) 車体を水平堅土上に設置する。 2) ブーム格納状態で、ジャッキ張り出し操作にてタイヤを浮かす。 3) エンジンを停止する。 4) ジャッキインナーにマーキングする。 5) アウトリガ操作バルブを操作し、残圧を抜き1分後に0点をセットする。 6) 10分経過後、降下量を測定する</p> <p>「判定基準」 ジャッキインナーの縮小量は1mm以内/10分</p> <p>※油温の高い時は行わないこと</p>	

<p>※2. 速度測定方法</p> <p>「測定要領」 1) 車体を水平堅土上に設置する。 2) 作業車の作動範囲に障害物がないことを確認する。 3) 各操作は旋回台で行う。 4) 油温は40±5℃で行う。</p> <p>①起状速度 1) ブーム全縮状態で、伏せ操作により「伏」エンドまで下げる。 2) 起操作により「起」エンド停止までの時間を測定する。</p> <p>②伸縮速度 1) ブームを全縮状態で、起操作により「起」エンドまで上げる。 2) 伸操作により「伸」エンド停止までの時間を測定する。</p> <p>③ブーム旋回速度 1) ブームを全縮、起エンド状態で後方に向ける。 2) ブーム旋回操作により1回転するまでの時間を測定する。 3) ブーム右旋回、左旋回共に行う。</p> <p>④プラットフォーム旋回速度 1) ブームを全縮、起エンド状態で後方に向ける。 2) デッキ旋回操作により1回転するまでの時間を測定する。 3) デッキ右旋回、左旋回共に行う。</p>	
--	--

※4. 作業半径測定方法

[測定機器]

1. 角度計
2. 巻尺
3. 重錘
4. 水系

「測定例」

※測定値や測定方法は、機種によって異なります
 また、同じ機種でも張り幅やウエイトの重量によっても異なります
 詳細はサービスマニュアルを参照してください。

- 1) 高所作業車を水平堅土に水平に設置する。
 (タイヤが浮いていることを確認する)
- 2) ブーム操作は、下部操作の低速側にて行うこと。
- 3) ブームを水平状態にし、伸長操作にて AMC100%停止させ、作業半径を測る。
 やむを得ずブームを立てて行なう場合は、上部操作で微速「伏」操作にて行なうこと。
 ※バスケット(プラットフォーム)の積載荷重は機種、または仕様によっても異なっているので各機種のデータを参照すること。
- 5) 規定の作業半径に達してもブームの作動が 100%停止しない場合は、作業半径が大きくなる側の操作は絶対にしないこと。

